



## 1、はじめに

本園は、園歌のとおり、緑の葉が光り揺れる樹木や草花の豊かな「みどりの高輪幼稚園」であり、園児が季節の移ろいを身近に感じることができる。港区教育ビジョンを見据え、幼児が園庭の樹木のようにしっかりと育つために、主体的で体験的な活動を積み重ね、生きる力の根っこを育みたい。「わくわく ぽかぽか みんな笑顔の高輪幼稚園」を経営のキーワードとして計画的な経営を行い教育の充実を図る。

### 港区教育ビジョン

基本理念 「すべての人の 学びを支え つなぎ 生かす」

目指す人間像 「生涯を通じて夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する人」

基本的方向性 ①「徳」「知」「体」を育む学び ②生き抜く力を育む学び ③生涯を通じた学び

④地域社会で支えあう学び ⑤つながり、伝え、循環する学び

## 2、教育目標

「やさしく、かしこく、たましく、伸びる高輪の子」

やさしく …他人への思いやり、協同の精神や人権尊重の精神、社会生活における望ましい習慣や態度を育む

かしこく …確かな学力につながる言葉の獲得や考える力、表現する力を培う。

たくましく…健康・体力につながる生活習慣の確立と進んで運動しようとする態度を養う。

伸びる …自ら伸びようとする主体性、積極性、意欲を養う。

### 園経営における中期的目標と方策

(1) 子どもも大人も、安心して自己を発揮できる環境づくり (環境による教育)

- ① 幼児が自ら環境に働き掛け、主体的に遊びや生活を創り出す環境を整える。
- ② 環境整備や安全対策、情報の管理を徹底し、安全を確保し、園務などの効率を高める。
- ③ 保護者が子育てや幼稚園生活を楽しめるよう情報発信を行い、連携を円滑に進める。

(2) 確かな保育理念・理論と実践力を備えた教師集団づくり (教育は人なり)

- ① 乳幼児期から青年期までの発達を踏まえ、将来を見据えた幼児教育の充実を図る。
- ② 進んで協働できる教職員集団を伸ばし、研修・研究を充実させ、専門性を高める。
- ③ 幼児と教師との応答的な関係性を大切に、幼児と共に園生活を創り出す実践を推進する。
- ④ 教師は、謙虚に学び、感性を磨き、力量を高めようとする姿勢を確立する。

(3) 高輪幼稚園ならではの質の高い教育の創造 (地域の幼稚園)

- ① 緑豊かな園内外の自然環境を生かした豊かな遊びや生活が展開できるよう、創意工夫を凝らし、魅力ある教育内容の充実を図るとともに自然への畏敬の念を育む。
- ② 「歴史ある高輪」「新しい時代の高輪」の特性や花いっぱい運動などにおいて地域に親しんだり、保育園・小中学校や高等学校の人々と関わったりする機会を大事にし、心温まる体験を積み重ね、感謝や憧れの気持ちを育てる。
- ③ 園内での異学年交流や未就園児との関わりなどを通して、相手の立場になって考えたり行動したりする思いやりの心を育てる。

### 3、教育目標を実現する目指す幼稚園像

#### 経営のキーワード わくわく ぽかぽか みんな笑顔の高輪幼稚園

##### 「わくわく」

充実した園生活の中で子どもも大人も心を弾ませて学び合い、互いに成長する。

- ・ 幼児が「幼稚園が楽しい」[先生大好き、友だち大好き]と毎日、心を弾ませて通い、主体的で体験的な遊びや生活を通して、子どもが成長する幼稚園
- ・ 教師が子どもの育つ姿に喜びを感じて保育を行い、日々学び、向上していく幼稚園
- ・ 保護者や地域の方々が、教育を信頼し、子どもの育ちを期待して協力する幼稚園

##### 「ぽかぽか」

互いの良さを認め、心を温め合いながら子どもも大人も成長する。

- ・ 幼児が、教師や保護者から心を温める言葉や行動で応援され、支えられて育つ幼稚園
- ・ 幼児同士、教師と保護者、保護者同士、教師同士が良さを認め、心を温め合いながら互いに成長する幼稚園

##### 「みんな笑顔の高輪幼稚園」

子どもも大人も笑顔や活力を地域に発信し、地域とともに成長する。

- ・ 幼児が地域や高松アカデミーなどで、様々な人との関わりや体験を通して育つ幼稚園
- ・ 教師や保護者が教育の充実のために生き生きと行動する姿を見せ、子どもにとっての憧れとなる幼稚園
- ・ 安全管理や整理整頓、清潔が行き届いた安心、安全な幼稚園。

#### (1) 直接的な体験を重視した教育

- 幼児が自ら環境に働き掛け、主体的に遊び、生活する教育を展開し、思考力、人と関わる力、生活する力を育む。
- 緑豊かな園内外の自然環境を生かし、生き物や植物と触れ合いながら、豊かな遊びや生活を展開する教育内容の充実を図るとともに自然への畏敬の念を育む。
- 異学年交流や未就園児とのかかわりなどを通して、相手の立場になって考えたり行動したりする思いやりの心を育てる。
- 高松アカデミーの小中学校、保育園、高校、消防署、警察署、児童館、商店、寺社などの方々と直接触れ合う機会を大事にし、心温まる体験を積み重ね感謝や憧れの気持ちを育む。
- 地域探検活動では、歩く距離を徐々に伸ばし、長い距離を歩く体力や持久力を身に付け、健康な心と体を育成する。

#### (2) 就学を見据えた計画的な教育

- 港区版「小学校入学前カリキュラム」育てたい3つの力「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」を育むために、「たかなわの子ども」(下記参照)を幼児、教師、保護者に浸透させ、3年間の発達を踏まえ、就学に向けて体験的な活動を積み重ねながら育ちを支える。

「たかなわの子ども」 就学を見据えて3年間の幼稚園教育の中で様々な力を育み、充実感味わわせる。

たのしく、かっこよく、なかよく、わらって(笑顔)生活し、遊ぶ子ども

- |       |                                                                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| たのしく  | ・ 環境に働きかけて発見する楽しさ、考え工夫して作ったり、表現したりする楽しさ、体を動かす楽しさを感じて遊ぶ。                                                                        |
| かっこよく | ・ あいさつをする。(おはようございます ありがとう ごめんなさいなど)<br>・ 自分で考えて行動し、自分のことが自分できるようになる。<br>・ 人の話をきちんと聞き、自分の思いを言葉で伝えて遊ぶ。<br>・ 幼稚園の約束や社会生活のルールを守る。 |
| なかよく  | ・ 人と関わって生活したり遊んだりすることを楽しむ。その中で相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを調整したりできるようになる。<br>・ 自分を大切にするとともに相手の良さや多様性を認める。                                |
| わらう   | ・ 先生や友だちと一緒に遊びや生活を作り出す楽しさを感じ、充実感や満足感を味わい、笑顔で過ごす。                                                                               |

- 教師は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの感心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現)を常に意識した指導と環境構成の工夫を行う。また、保護者や地域へも具体的な子どもの姿を発信し、連携しながら子どもの成長につなげていく

### (3) 学び続ける教職員

- 幼児一人ひとりと教師との応答的なやり取りを大切にしながら信頼関係を築き、体験を重視した教育を展開しながら個々の育ちと学級集団の育ちを重ね合わせる学級経営を行う。
- 教職員は、経営計画を理解し、自己申告やキャリアプランを活用し、1年間の具体的な目標と方策をもち、「チャレンジ精神を忘れず、仕事に取り組み、自己研鑽に励み常に教師として人として学び続ける。
- 幼児の実態に即した新たな教材開発や環境設定を積極的に工夫する。充実した教育内容にするために改革したり、工夫したりすることを喜びとし、既存の指導計画に今年度の取組を上書きして次年度へつないでいく。専門性を高めるために進んで研修に参加し、その成果を教職員全員に伝えて意識を高め、さらに保護者や地域にも発信する。
- 指導計画は、教育要領と照らし合わせて計画、実践、振り返りを行い、教育の充実に努める。
- 園内の環境を生かし、幼児が直接的に自然に関わる活動を多く取り入れ、幼児が五感で感じる体験を積み重ねながら感性を磨いていけるようにする。また、保護者も一緒に体験したり、情報を共有したりしてその活動の価値や楽しさを感じられるようにする。
- 教職員が危機管理意識を高めるために生活安全、防災、アレルギー対応、情報管理について研修を積み重ね、日常的なチェック体制を確立し、幼児も保護者も安心して生活できる危機管理体制を整える。
- チーム高輪として、教職員全員が互いの良さを認め合いながら育ち合い、学び合う姿勢を基本とし、思いやりに溢れた温かい協同体として結束する。また教職員一人ひとりの持ち味を発揮し、教師として育つよう支援する体制を強化する。

### (4) 保護者との連携による教育

- 月1回行事連絡会（20分程度）を開き、行事の趣旨などの説明を行ったり、幼児の育ちを伝えたりして幼稚園と家庭との連携が円滑に進むようにする。
- 園長主催の子育てシェアトークを年8回程度計画し、適時的なテーマから保護者同士が対話したり、情報を共有したりする機会をつくり、保護者が安心して子育てができるようにする。
- 高輪タイムや参観の際に保護者が園生活や遊びに参加する機会をつくり、幼児とともに活動することで、幼稚園教育を理解する。また、我が子以外の幼児の個性や多様性を理解して全ての子どもを見守り育てようとする大人の意識を醸成していく。
- PTA活動などを通して、地域の子育て仲間としての関係づくりを図る。子どもの発達や子育てに関する講演会や直接話す機会を工夫し保護者同士の育ち合いを支援する。
- ホームページの毎日の更新を継続し、Twitterなども活用しながら日々の活動や幼児の育ちを発信し、幼稚園への教育理解を深める。

### (5) 地域とともにある教育

- 地域の主要な活動である「桂坂花いっぱい活動」「幼稚園も花いっぱい活動」を教育課程やPTA活動に位置付ける。園児、教師、保護者の協同作業として進め、親睦を図りながら園舎内外の美化や緑化を行う。また、赤十字活動として実人の役に立つ喜びが味わえるようにする。
- 地域探検活動や高輪台小学校校庭でのランランタイムの活用により、幼児の体力向上を目指す。
- 高松アカデミーとして中学校や小学校、保育園との交流を行い、互惠性をもったねらいを明確にして計画し、その交流の充実をはかる。実践後の省察を共有し、より良い交流につなげる。

## 4、今年度、重視する取組の目標と方策

### (1) 自然との直接的な体験を重視した教育

- 園内研究の主題を「豊かな感性をもつ幼児を育てるー自然との直接的な関わりを通してー」とした。研究を進めることで教員の指導力の向上を図ることはもとより、園内の自然環境を整えたり、教材や活動の工夫をしたりすることで幼児の直接的な体験が充実するような教育を展開していく。加えて、幼児の「感性」を感じる教員としての資質を高める。教師が感性を磨くために、幼児とともに自然と関わり、教師自身も幼児と一緒にその楽しさや喜び、自然への畏敬の念を感じていくことを重視する。

### (2) オリンピック、パラリンピック教育

- オリンピック、パラリンピックに夢や期待をもたせ、体を動かしたり競ったりする楽しさを味わわせる。
  - ・ 運動会や親子活動の内容を工夫し、親子で体を動かす楽しさを感じたり、日常の遊びに取り入れたりしながらオリンピック、パラリンピックを楽しみにできるようにする。
  - ・ キスポート財団と連携し、タグラグビー教室を5歳児の教育課程に位置付け実践する。

- 外国の文化や言葉に興味をもたせるとともに日本の文化を身近に感じ、親しむ。
  - ・地域や保護者の協力を得ながら、外国の文化や外国語に触れる時間をもつ。また、各学年で教材を開発したり、工夫したりして幼児が外国に興味、関心をもてるようにする。
  - ・お茶会、伝統行事の会（端午の節句、七夕、お月見、豆まき、桃の節句など）などにおいて実際のものを使ったり、見たり、製作したりする中で日本の文化を感じたり知ったりする。
- 障害者理解やボランティアマインドを醸成する。
  - ・オリンピック、パラリンピックの映像などを視聴したり、手話を保育の中に取り入れたりするなど、障害を幼児なりに感じ、理解する機会をもつ。また、桂坂を花いっぱいにする活動や、古切手などによる募金活動などから幼児のボランティアマインドの芽生えを育む。

### (3) 就学を見据えた計画的な教育

- 港区版「小学校入学前カリキュラム」の育てたい3つの力「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」を育む。
  - ・教職員は「たかなわの子ども」を常に意識し、3年間の発達を踏まえ、就学に向けて体験を重視する活動を積み重ねる計画と実践を行い、幼児の育ちを支えていく。
  - ・小学校との交流を再開し、給食体験、授業体験などの交流を計画し、小学校や小学生に憧れや期待をもつ活動を行う。

### (4) 地域、保護者を活用した教育

- 地域や保護者と連携して幼児期の教育の充実を図る。
  - ・地域との交流を今までの実績から継続し、その経験を幼児の活動の充実につなげる。
  - ・親子活動や参観などで、保護者が幼児とともに活動する機会をもち、幼稚園教育や幼児理解を深めるとともに全ての子どもを見守り育てようとする大人の意識を醸成していく。
  - ・地域探検活動では、歩く距離を徐々に伸ばし、長い距離を歩く体力や持久力を身に付け、健康な心と体を育成する。

### (5) 幼児の健康な生活のための指導と環境づくり

- 幼児の健康な生活習慣を確立するとともに、より安心、安全な幼稚園環境を整備する。
  - ・感染症予防対策としての新しい習慣「検温と健康観察」「正しい手洗い」「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」「3密を回避する環境づくり」を保護者との連携により継続する。
  - ・健康な生活や感染予防のために、「早寝、早起き、朝ごはん」「徒歩による通園」を継続し、習慣として確立していく。
  - ・安全管理、整理・整頓、情報管理、清潔の整備のチェック体制を強化し、整備、美化する。

### (6) 働き方改革

- 高輪幼稚園の働き方改革として下記のように取組目標を定めます。

#### <働き改革 高輪幼稚園の取組目標>

- ① 業務時間終了後は、原則定時（午後5時）退勤とし、遅くとも、午後7時には退勤することを目安とします。
- ② 週に1日「定時退勤デー」を設定します。
- ③ 長期休業中は、2週間程度の閉庁期間を定め、それ以外の勤務日は定時退勤を厳守します。

- 業務の効率化を図るために、計画的な時間運用、時間厳守、的確な優先順位決定、個人業務の集中時間の確保と環境づくりを行う。またチームとして協働することを念頭に置き、声を掛け合って温かい連携で効率化を図る。

#### <保育終了後の基本的な業務計画>

| 14:00 | 14:15                                   | 15:00                            | 16:30                     | 17:00                 | 19:00 |
|-------|-----------------------------------------|----------------------------------|---------------------------|-----------------------|-------|
| 降園時連絡 | 休憩<br>保育振返り<br>14:45 245 会議<br>*個人業務の共有 | 会議・全体作業等<br>*終了時間を厳守<br>個人業務集中時間 | サポート保育降<br>園時連絡<br>日直業務完了 | ～ 退勤 ～<br>目標 18:00 退勤 |       |

- ・教職員一人ひとりが常に改革を意識し、考案をチームに発信、共有し効率化を図る。